

私たちの町を走る

広電を知りたい👁️

町マ
今も昔も市民とともにお

● 広電の始まり

大正元年(1912)11月23日に現在の広島電鉄株式会社(前身の会社であるひろ島電氣道株式会社)によって広島に路面電車が走り始めました。それから今日まで100年たっても市民の足となって走っています。

● ひばく電車に乗った!

ひばく71年をむかえた、この夏私は又マジ交通ミュージアム(広島市交通科学館)の広場にてん示されているひばく電車650形654号に乗りに行きました。この電車江波でひばくした年の、よく年昭和21年2月にひばくしてから、平成18年6月まで広島市の町を走り続けました。



編集後記

いつも広島市の町を動いている路面電車は今回の新聞作りで昔から今までのいろいろな事がありました。私やお母さんやお父さんが生まれる前から広島を知っている電車がこれからはまた20年、30年とたっても今と変わらなすみんなの役に立つ電車であってほしいです。

発行日

2016年8月7日
発行責任者
大塔 遥 佳

● 歩いた方が早かったり??

町のまん中を(と)と(と)と走る電車。速度は早い車時間をふくめると平均で時速10km走っているよりも、信号待ちの方が長い時もありです。しかし、ききを買ったリ、駅のないホームやかいたんも近い身近な路面電車は、みんなの足となすいます。

● ひばく3日後に

広島市の町に原子ばくだんが落とされ町は焼け野原となりました。誰のんたたちは落されたばくだんがどんな物か分からない中動ける人を中心にするにふざけよう作業は行われ、わすか3日後には走りはじめたそうです。

走る路面電車を見た人々には、このうにむけて勇気づけられたそうです。現在でも市役所付近でひばくした6501号と広島港付近でひばくした6522号は元気に広島市の町をほらしています。



参考資料
「広島電が走る街」
昔
長船友則
「ひばく電車の語り部」
加藤一孝

● 人にも町にもやさしい

路面電車を目指して

広電では平成11年(1999)に超低床電車5000形の二号がドイツからやって来ました。

「グリーンムーンバー」と名づけられその6年後には、日本の完全超低床電車「グリーンムーンバー」が、平成25年(2013)には、

「グリーンムーンバー」が市内を走っています。乗りやすさにこだわった超低床電車。グリーンムーンバーは、平和都市のイメージでカラーは白に、宮島のモジをデザインした座席と、

広島うしすのつまった電車です。電車を待つ電も変化しました。とつ着時間や電車の種類が待つ人に

分かるよう表示したロケーションシステムやホームはスロープや安全な手すりなどが新たに作られました。